

愛知県公立大学法人
平成28年度業務実績に関する評価結果

平成29年8月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

はじめに	1
第1 全体評価	
1 評価結果と判断理由	2
(1) 評価結果	
(2) 判断理由	
ア 項目別評価	
イ 評価に当たって考慮した項目	
2 評価に当たっての意見、指摘等	5
第2 項目別評価	
1 法人運営の改善に関する項目	
(1) 評価結果	6
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	6
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	6
2 財務内容の改善に関する項目	
(1) 評価結果	7
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	7
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	7
3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目	
(1) 評価結果	8
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	8
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	8

4	その他業務運営に関する重要項目	
(1)	評価結果	9
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	9
	ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
	イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
	ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	9
5	教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	10
(2)	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	11
	【県立大学】	11
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	
	【芸術大学】	13
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	

<参考>

参考資料

- 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領……………15
- 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿……………18

はじめに

愛知県公立大学法人の平成28年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、中期計画に定めた項目について、下記のとおり評価を行った。

記

評価は、平成28年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

評価項目のうち、「教育研究等の質の向上」については、教育研究の特性に配慮し、学校教育法に規定する認証評価機関の評価結果を踏まえて、中期計画総合評価で評価することとしており（注）、平成28年度は、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

なお、平成28年度の評価に当たっては、これまで各大学が重点的に行ってきた取組を確認した上で、評価作業を行った。

注：地方独立行政法人法

第79条 評価委員会が公立大学法人について、第30条第1項の評価（中期目標に係る業務の実績に関する評価）を行うに当たっては、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえることとする。

（参考） 中期計画（平成25年度～平成30年度）に定める項目

大項目	小項目
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	65
第2 法人運営の改善に関する目標	10
第3 財務内容の改善に関する目標	3
第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価 及び情報の提供に関する目標	3
第5 その他業務運営に関する重要目標	7
計	88

第1 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

存在感と信頼感のある「誰もが誇りに思う大学」を目指し、自立した個人として時代に向き合い、地域・世界に貢献できる人材を育成する教育の充実に重点的に取り組むという中期目標の方向性に沿って

中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

(2) 判断理由

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、法人の活動全体について評価した。

ア 項目別評価

項目別評価結果一覧

大 項 目 \ 評 価	S	A	B	C	D	項目別評価の内容
法人運営の改善に関する目標		○				6 頁
財務内容の改善に関する目標				○		7 頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○				8 頁
その他業務運営に関する重要目標		○				9 頁
教育研究等の質の向上に関する目標	(事業の外形的・客観的な進捗状況) おおむね順調に実施していることを確認					10 頁

※ 評価基準

- S 特に優れた実績を上げている。
- A 順調に実施している。
- B おおむね順調に実施している。
- C 十分に実施できていない。
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。

イ 評価に当たって考慮した項目

中期目標の方向性に沿って実施された平成28年度の取組について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目、特記事項記載等の項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。

＜特筆すべき（高く評価した）項目＞

【教 育】

○新グローバル人材育成事業実施の決定 [5：県立大学]

- ・異文化理解・多文化共生に重点を置いた新グローバル人材育成事業として、全学に対象を拡大し実施することを決定

○ダブル・ディグリー協定の締結 [8：県立大学]

- ・県立大学初のダブル・ディグリー協定を台湾静宜大学人文社会科学部台湾文学学科と締結

○次世代ロボット研究所の開設 [14：県立大学]

- ・施設を活用した企業等との共同研究を開始
- ・施設を活用した授業の実施等により、教育における研究所利用を拡充

○世界に通用する芸術家の育成 [47：芸術大学]

- ・パリ＝ソルボンヌ大学とのコチュテル（博士論文共同指導）の協定に基づき、同制度による音楽分野日本初の博士号学位取得者を輩出

○在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援 [55：芸術大学]

- ・宗次ホールと連携し、演奏家へのキャリア支援の取組である「エマージングコンサート」を新たに実施
- ・「芸術学生のための合同企業説明会」の参加大学、出展企業数の増加（平成27年度 6大学・41社→平成28年度 7大学・55社）

【研 究】

○国際的に通用する質の高い研究 [58：芸術大学]

- ・日本学術振興会の研究拠点形成事業に芸術系大学として初めて採択
- ・模写・修復等に関する受託研究や科学研究費助成事業等による研究の件数を増加（平成27年度 3件→平成28年度 7件）

【地域連携・貢献】

○県民が芸術に親しむ機会の創出 [63：芸術大学]

- ・大学を挙げた創立50周年記念事業の実施（延べ来場者数 約27,000人）

【法人運営】

○職員の資質向上のための組織的な取組の推進 [73]

- ・「事務職員人材育成方針」の全面改正
- ・他大学との人事交流の開始、県への研修生派遣を決定
- ・職員の海外研修の本格実施（2名）

＜遅れている項目＞

【教 育】

○グローバル人材育成に係る TOEIC800 点の目標 [9：県立大学]

- ・平成28年度英米学科卒業生のうち TOEIC800 点獲得者 7割以上という数値目標の不達成（平成28年度英米学科卒業生のうち TOEIC800 点以上を獲得した者の割合 47.5%）

【財務内容】

○一般管理費比率（一般管理費／〔業務費＋一般管理費〕）の対前年度比減 [78]

- ・一般管理費比率の対前年度比減という数値目標の不達成

<特記事項記載等の項目>

【教 育】

○学生の地域貢献活動の支援 [26：県立大学]

- ・「地域ものづくり学生共同プロジェクト」において、学生と地元企業が連携し、多言語による PR 記事作成や商品企画を実施
- ・「留学生的愛知ガイドづくり」として、留学生・日本人学生が多言語パンフレット作成により愛知県の魅力を発信

【法人運営】

○理事長・学長のトップマネジメントによる予算編成 [67]

- ・理事長・学長トップマネジメントによる予算編成手法の検討・試行

【財務内容】

○自己収入の増加に向けた取組強化 [76]

- ・芸術大学創立 50 周年記念事業における寄附額が、記念事業の支出総額約 56 百万円を上回る累計総額約 73 百万円(706 件)に到達

【自己点検・評価及び情報の提供】

○大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動 [80]

- ・県立大学創立 70 周年記念事業及び芸術大学創立 50 周年記念事業の企画・実施による、教育研究活動等の発信

2 評価に当たっての意見、指摘等

平成28年度は目標達成に向けた様々な取組を着実に進め、中期計画をおおむね順調に実施していることは評価できる。

- (1) 引き続き、設置者である県、他大学、地域社会との連携の推進や、各大学の特色を生かした意欲的な取組を積極的に進めていただくとともに、その内容や成果について、学外への更なる情報発信に努められることを期待する。
- (2) 現在も様々な取組において、理事長、学長のトップマネジメントが発揮されているように見受けられるので、今後もその下で教職員が一体となり、中期目標期間の最終年度に向けて、目標が達成されるよう努力されたい。

第2 項目別評価

1 法人運営の改善に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	9	1	10
評価区分ごとの項目数の内訳			9	1	10
組 織 運 営 の 改 善			4		4
人 材 の 確 保 ・ 育 成			3	1	4
効率的・合理的な業務執行			2		2

評価区分

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目〔評価Ⅳ〕

〔73〕 職員の資質向上のための組織的な取組の推進

法人や大学の役割変化等を踏まえ、「事務職員人材育成方針」を全面改正し、新たに他大学との人事交流を開始するとともに、県への研修生派遣を決定した。

さらに、職員の英語力向上への意欲喚起のため、海外研修を本格実施した。

イ 遅れている項目〔評価Ⅱ〕

な し

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な し

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

な し

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	1	2	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳		1	2		3

評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目〔評価Ⅳ〕

な し

イ 遅れている項目〔評価Ⅱ〕

[78] 一般管理費比率（一般管理費／〔業務費＋一般管理費〕）の対前年度比減
一般管理費比率については、経費の抑制に向けて様々な努力をしたものの、対前年度比減という目標を達成できなかった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な し

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

な し

3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	3	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳			3		3
評価の充実			1		1
情報公開等の推進			2		2

評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

[80] 大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動

県立大学・芸術大学においては、様々な魅力ある取組が実施されており、その取組の更なる周知が望まれる。

今後に向けては、情報発信を行う対象に合わせたアプローチ方法の検討や、情報発信後の効果の検証という視点も重要である。

4 その他業務運営に関する重要項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)					
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)					
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)					
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)					
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)					

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	7	0	7
評価区分ごとの項目数の内訳			7		7
施設・設備の活用及び安全管理			4		4
社会的責任及び法令遵守			3		3

評価区分

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

5 教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

各大学について、いずれも

おおむね順調に実施していることを確認

※「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携 ・ 貢 献	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	1	0	0	1	1.5
	県大	1	0	0	1	2.3
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	総合	38	8	11	57	87.7
	県大	26	5	8	39	90.7
	芸大	12	3	3	18	81.8
年度計画を上回って実施している	総合	5	1	1	7	10.8
	県大	3	0	0	3	7.0
	芸大	2	1	1	4	18.2
計	総合	44	9	12	65	100.0
	県大	30	5	8	43	100.0
	芸大	14	4	4	22	100.0

(2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

【 県立大学 】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢 献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	1	0	0	1	2.3
年度計画を十分に実施している	26	5	8	39	90.7
年度計画を上回って実施している	3	0	0	3	7.0
計	30	5	8	43	100.0

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

[5] 教育：新グローバル人材育成事業実施の決定

グローバル人材育成推進事業に対する文部科学省からの補助金が平成 28 年度末で終了することに伴い、終了後の事業について検討し、グローバル人材育成を外国語学部のみを対象として実施していたものから、異文化理解・多文化共生に重点を置いた新グローバル人材育成事業として、全学を対象を拡大し実施することを決定した。

[8] 教育：ダブル・ディグリー協定の締結

国際通用性の向上と、留学によって得られる学生の学問的成果を高めるため、県立大学においては初めてとなるダブル・ディグリー協定を、台湾静宜大学人文社会科学部台湾文学学科との間で締結した。

[14] 教育：次世代ロボット研究所の開設

次世代ロボット研究所の開設により、これまでは実施できなかった、研究所の実証実験スペースや設備等を活用した企業等との共同研究を実施した。

また、共同研究への学生の参画による教育の充実や、研究所の施設を活用した授業等の実施など、教育における研究所利用の幅を拡充した。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

な し

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

[9] 教育：グローバル人材育成に係る TOEIC800点の目標

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」

理 由

高い目標の達成に向けて、対策講座や英語教育 FD の実施に取り組んだ結果、750 点以上の高得点獲得者の割合は平成 25 年度から毎年度上昇し、平成 28 年度には 63.4%となり、英米学科生の英語力向上を実現したことは大いに評価できる。

しかしながら、平成 28 年度英米学科卒業生のうち、TOEIC800 点を獲得した者の割合は 47.5%と、数値目標(70%)の達成には至らなかったため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

[8][9] 教育：グローバル人材育成に係る TOEIC800点の目標

数値目標は達成できなかったものの、今後においても、英米学科生に高いレベルの英語力を身に付けさせ、卒業時までには高度な運用能力を獲得させるという、当初の目標に近づけるための努力を期待したい。

[35] 研究：科学研究費補助金の申請率

科学研究費補助金の申請率について、平成 25 年度から 4 年連続で、目標が達成されたことは大いに評価すべきである。

一方で、採択率も重要な指標であるので、今後に向けては申請率に加え、採択率向上に向けた取組に一層努められたい。

【芸術大学】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携・貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	12	3	3	18	81.8
年度計画を上回って実施している	2	1	1	4	18.2
計	14	4	4	22	100.0

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

[47] 教育：世界に通用する芸術家の育成

パリ＝ソルボンヌ大学とのコチューテル(博士論文共同指導)の協定に基づき、国際的な審査団による審査を経て、博士論文の共同指導にとどまらず、同制度による音楽分野日本初の博士号学位取得者を輩出した。

[58] 研究：国際的に通用する質の高い研究

ウズベキスタンとの交流事業を推進し、日本学術振興会の研究拠点形成事業に芸術系大学として初めて採択されたほか、模写・修復等に関する受託研究や科学研究費助成事業等による研究の件数を増加させ、特色のある研究を推進した。

[63] 地域連携・貢献：県民が芸術に親しむ機会の創出

創立 50 周年記念事業として、寄附金約 56 百万円を財源に、教員、在学生、卒業生が総力を挙げて様々な企画に取り組んだ結果、延べ約 27,000 人の来場者があり、年間を通して県民が芸術に親しむ機会を提供した。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

なし

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

[55] 教育：在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」

理 由

宗次ホールとの連携により、演奏家への実践的なキャリア支援の取組である「エマージェンシングコンサート」を、在学生のみならず卒業生・修了生も含めて新たに実施したほか、「芸術学生のための合同企業説明会」への参加大学、出展企業を増加させるなど、キャリア支援の取組を充実させたため、「年度計画を上回って実施している」と評価できる。

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

な し

参考資料

○ 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施にあたっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

なお、戦略性が高く意欲的な計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。

① 項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの４段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の４段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの５段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。（特に認める場合）
A	順調に実施している。（すべてⅢ～Ⅳ）
B	おおむね順調に実施している。（Ⅲ～Ⅳが９割以上）
C	十分に実施できていない。（Ⅲ～Ⅳが９割未満）
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。（特に認める場合）

※大項目で「Ⅲ～Ⅳが９割未満」の場合については、Ⅱ以下となった項目の重要性・計画の実施状況等を勘案した上で、総合的に評価する。

② 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。
- (4) 知事は、前項の報告を受けたときは、その旨を議会に報告する。

6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

○ 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏 名	職 名
梅原 秀哲	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
岡田 亜弥 (委員長代理)	名古屋大学副理事 名古屋大学大学院国際開発研究科教授
九鬼 綾子	ミックインターナショナル株式会社代表取締役
佐藤 元彦 (委員長)	愛知大学経済学部教授（前理事長・学長） 豊橋技術科学大学監事
二村 友佳子	公認会計士・税理士 名古屋工業大学監事

(五十音順、敬称略)